2018年8月3日

本日2つの特ダネ

MAINICHI 毎日新聞

特定機能病院

「診療縮小」4分の1

実施・検討 医師の過労対策

高度医療を提供する大学病院など全国の特定機能病院のうち、少なくとも4分の1に当たる21病院が診療体制や患者サービスを縮小するか、縮小を検討していることが、毎日新聞のアンケートで明らかになった。国が進める働き方改革に伴い、医師の長時間労働を是正するためとみられる。ただ、診療制限は患者サービスに直結するだけに、是正に踏み切れない実態も浮かんだ。（3面にクローズアップ）

1面掲載▲

ボクシング

会長 暴力団組長と交友

50年以上、連盟理事時代も

日本ボクシング連盟の山根明会長（78）が半世紀以上にわたり、山口組系暴力団組長だった大阪市の男性（81）と交友関係があったことが明らかになった。男性が毎日新聞に証言した。山根氏が1991年に連盟理事に就任以降の時期も含まれている。男性は2007年に組長を引退。数年前からは関係も絶たれたとされるが、ボクシングの国際統括団体でも反社会勢力との関係が問題視されており、山根氏の説明責任が問われるのは必至だ。

山根氏は2日、毎日新聞の取材に対し、男性との関係について明言せず「近いうちに生放送で全部言う」と述べ、テレビの生中継を条件に取材に応じる考えを示した。

日本スポーツ協会は16年11月から「倫理に関するガイドライン」で加盟団体に対し、反社会勢力との交流を禁じるよう求めている。一方、捜査関係者によると、男性は07年6月に組長を引退した。

男性の証言によると、男性が20代のころからの付き合いで、山根氏は男性の組事務所に出入りしていた。組長の引退後も交友は続き50年以上の付き合いがあったが、数年前からは関係を絶っているという。99年には、山根氏とともに韓国のボクシング団体幹部が来日した際に接待し、訪韓してこの幹部と交流したこともあった。

男性は、かつては海外のボクシング団体幹部にマフィアの関係者がいたと明かし、「山根（会長）みたいにヤクザと（人間関係を）培って勉強したような人間でないと（海外では）対等にモノが言えなかった」と指摘。背景について持論を述べた。

一方で山根氏は、90年代の頃は自身と暴力団との関係を周囲に明かす場面もあったという。関西の学校でボクシング部顧問をしていた男性教員は「『俺は抗争で体を張ってきた』と言っていたのを覚えている」と語った。【武本光政】

カラオケを歌う元暴力団組長（左から2人目）と写真に納まる山根明・日本ボクシング連盟会長（中央）。撮影日は1999年11月9日と記録されている＝画像の一部を加工しています

27面掲載▶

お問い合わせは下記販売店まで

お試し読み・ご購読のお申し込みは
●WEB 毎日新聞 試読 検索 毎日新聞 購読 検索
●電話 0120-468-012（よむは まいにち） 受付時間：午前6時～午後9時